

ESD-J 会員のみなさま

2023年10月2日にスペインと国際エネルギー機関(IEA)が主催した国際気候・エネルギーサミットに世界のリーダーが出席し、地球温暖化を摂氏1.5度に抑えるための取り組みの支援を議論しました。会議には、35か国の関係者が参加し、業界、市民社会、若者組織からも参加しました。

会議では、本年11月～12月にUAEで開かれるCOP28を見据えて、国連会議で焦点を当てる主要な目標の中でも、化石燃料を段階的に廃止するための呼びかけが行われました。提示された主要な目標は、再生可能エネルギーの急速な成長とクリーンエネルギー移行のための世界的な協力を強調するIEAの最近のネットゼロロードマップに反映されています。目標には、1.5度を達成するために途上国への投資を拡大しなければならないことを認識し、化石燃料の使用の秩序ある減少を求めました。

化石燃料を段階的に廃止するための重要なステップには、業界への補助金と減税を提供する政府の慣行を段階的に廃止することが含まれます。今年初めにカナダが補助金を廃止するためのガイドラインを発表するなど、この目標に向けていくつかの努力がなされてきました。オランダは補助金の段階的廃止に向けた国際的連合を呼びかけました。

[参考] IEAのネットゼロロードマップ

IEAは、再生可能エネルギーの継続的な急速な成長、化石燃料の段階的廃止、および開発途上国のクリーンエネルギー移行を支援するための世界的な協力を強調するネットゼロロードマップの新版を発表しました。

https://iea.blob.core.windows.net/assets/6d4dd5b-be1b-4011-9dad-49c56cdf69d1/NetZeroRoadmap_AGlobalPathwaytoKeepthe1.5CGoalinReach-2023Update.pdf

2023年の報告書は、クリーンエネルギー技術の大幅な成長、化石燃料への投資の増加、および近年の記録的な世界的な排出レベルを考慮し、温暖化を1.5°Cに制限することは可能であるが、そのためには、エネルギーと化石燃料に基づく政治を撤回する必要があると指摘しています。

IEAのファティ・ビロル事務局長は以下のように述べています。

「地球温暖化を1.5°Cに抑えるという目標を存続させるには、世界が迅速に団結する必要があります。良いニュースは、私たちが何をやる必要があるか、そしてそれをどのように行うかを知っていることです。最新のデータと分析に基づく2023年のネットゼロロードマップは、今後の道筋を示しています。しかし、私たちはまた、強力な国際協力が成功に不可欠であるという非常に明確なメッセージを得ています。政府は、目前の課題の規模を考えると、気候を地政学から切り離す必要があります。」

報告書は、1.5°C目標を達成するための世界的な道筋を示し、2021年に発行され、政策立案者、業界、金融セクター、市民社会にとって不可欠なベンチマークとして役立つしてきた画期的な元のレポートを包括的に更新しました。この更新には、パンデミック後の経済回復や一部のクリーンエネルギー技術の驚異的な成長など、過去2年間のエネルギー環境への大きな変化が組み込まれています。

(仮訳・解説：ESD-J理事 鈴木克徳)